

美容室の真の繁栄をお手伝いする ' 10

たにぐちだより 5月

谷口美容 検索

Free0120-417-011

Tel082-238-2221

Fax082-238-2227

www.taniguchi-b.com



当社のお得な情報を  
今すぐゲット!

こちらに空メール下さいね♪

空メールアドレス

tb@xdm.jp

## サロンでの気づき

サロンを訪問し、気づかせていただいたこと、お聞かせいただいたことなどをお伝えしたいと思います。何かお役に立てれば嬉しいです。

暖かな春めいた日があったかと思ったら、次の日は冷たい雨が降ったりと、気温の変化の波に翻弄されている今日この頃です。

今月は、当社営業が投稿してくれましたので掲載させていただきます。皆様の投稿もお待ちしております。

### ●想いやり

あるサロン様とのお話の中でご指摘がありました。「自分を待っていてくれる人はいないんですけど、頑張っています。」と何気なく私が言った一言に対して、すぐに先生が、「ダメですよ。今の言い方は。相手に悪いイメージを与えますよ」と言われました。

一瞬何故だろう?と考えている間に先生から説明していただきました。

受ける側としては、「待っていてくれる人はいないんだな」とか、「あまり知られていない(商品)ってことは、売れてないんだな」という、悪いイメージを感じてしまうんだとのことでした。

その一言でガラッとイメージが変わってしまうから、いつも自分と商品に自信を持って行動していないといけなと話してくれました。

また、逆に相手からのほめ言葉を頂いた時には「いえいえ」と謙遜するのではなく、素直に「ありがとうございます」の言葉を返すことが相手に対しての「想いやり」であるとおっしゃっていました。本当に相手の事を考えて行動することは深く、難しい事だと私は改めて感じています。

そのために日々忙しくなる事はとても幸せな事だと思うし、これからもっとそういう姿になれるように努力したいと思っています。

以上

こんな事を言って下さる想いやりのある先生と仕事をさせていただいている営業は本当に幸せだと思います。本人にとって、大きな気づきをいただき、また一つ成長させていただいたのだと思います。私も社員に対し、気づいたことは、時には厳しく、時には励まし想いやりを持って接して行きたいと思っています。本当にありがとうございました。最後に斎藤 孝さんの本の一節から「You can do it!」の言葉を紹介して終わりたいと思います。

「You can do it!」とは、じつにいい言葉である。人を励まし、讃え、心をポジティブにさせる。すでに独特の世界観が形成されている。しかも一分どころか、せいぜい三秒もあれば言える。日本語にすれば「君ならできる」、あるいは「信頼している」「お前を見込んで任せる」といったところだろうか。

ただし、この日本語のニュアンスでは「やるだけやればいい」というメッセージとも受け止められる。それには同時に、自分なりによくやった」とか「この程度で十分だろう」という甘えや勘違いを生む恐れがある。つまり、励ますことがかえって仇になりかねないわけだ。

今の日本人に必要なのは、これと逆の粘りだ。逆境に直面したとき、もうひとふんばりして乗り越える力こそが求められている。その際の言葉として、「You can do it!」は最適だ。日本語では表現しきれない力強さがあるし、さすがに意味のわからない人はいないだろう。また日本語ではないというワンクッションが、ある種の照れ隠しにもなる。匹敵する日本語が見つからない以上、私たちがこの言葉をもっと気楽に有効活用すべきである。

「Thank you.」と同じレベルの慣用句にしてしまえばいいのである。

「You can do it!」と「がんばれ」の違い

「You can do it!」の利点は他にもある。

アメリカの映画などでは、登場人物が「Yes, I can!」などと自分に言い聞かせるシーンがよくある。これは自己暗示の類だが、人とのコミュニケーションの中で暗示にかけるなら、やはり「You can do it!」だろう。この言葉には、未来志向のメッセージがある。とりわけネガティブになりがちな現代の日本人にとって、もっとも必要な言葉であるといっても過言ではない。ただし、「You can do it!」には根拠までは含まれない。「できるかできないか、やってみなければわからないじゃないか」と言われればそれまでである。しかし、「自分ではできる」と思い込むこと、あるいは「あなたならできる」と人から諭されることは、間違いなく成功の条件である。…中略…例えていうなら、仮に自分がマラソンランナーだったとして、浴道から観客が旗を振りながらかけてくれる声が「がんばれ」。ペースメーカーが並走しながらかけてくれるのが「You can do it!」である。前者ももちろん嬉しいが、後者には「ともに成功を共有しよう」という意思を感じる。自分にとってどちらが本当に「がんばろう」とう気になるかは、自明の理だろう。

以上、斎藤 孝著「1分で大切なことを伝える技術より」